

第15回

生協組合員理事トップセミナーのご案内

日時: 2013/12/7(土) 13:00 開会 ~ 8(日) 13:45 閉会

会場: コープイン京都 申込締切: 10/29(火)

定員40名です。
お早めにお申
込みください。

ご参加のお誘い

今回「生協組合員理事トップセミナー」は第15回を迎えます。15年間の時代の変化は大きく、生協法の改正もあって組合員理事の役割も変化してきましたが、組合員理事が呼びかけ人となって企画づくりに参画するスタンスは変わらず受け継がれています。また、講師陣には、今年も協同組合に関わりの深い研究者の先生方のご協力のもと開催いたします。

さて、私たち組合員理事は、よりよい生協をつくるために、日々変化する情勢と限られた任期の中で、組合員理事として最大限の力を発揮し、その役割を果たしたいと考えています。そのために私たちは、どのような力をつける必要があるのでしょうか。

1日目の基調講演では、生協における組合員理事の役割とは何なのかを踏まえ、ものごとを「論理的に考える」(クリティカル・シンキング)とはどういうことかといった、「考える」こと自体に焦点を当てて学びます。そのツールとして、前回好評でリクエストの多かった「教育のためのTOC」を使います。初めての参加の方でも戸惑いなく、昨年受講された方はより深く学べるようになっていますので、ご心配なくご参加ください。

2日目は、少人数で学べる「講座」です。今回は、「協同組合に教育は必要か?」「組織の運営と民主主義」「海外の生協事情」「田畑と食卓を結ぶもの」をテーマに4講座を開講します。根本的なことが学べる、考える知恵を受け取れると毎回好評いただき、今回もまた新たな話題を提供します。

最後のお楽しみ、オプションツアーは、大河ドラマ「八重の桜」にちなんで、新島旧邸と同志社キャンパスを巡るツアーを開催します。

時代や情勢は変化しても、協同組合の理念・原点は変わるものではありません。昨年の国際協同組合年(IYC)を起点に、私たちはポストIYCの10年を見据えて、考え、行動する力をつけたいと思います。全国の組合員理事の皆さん、共に学び、交流しましょう。ご参加を心よりお待ちしております。



【呼びかけ人】 岩佐 恭子 (京都生協)
大塚 光子 (コープしが)
柴田 弘美 (京都生協)
中野 素子 (ならコープ)
原田 待子 (おおさかパルコープ)
平光 佐知子 (コープあいち)

50音順

【主催】 くらしと協同の研究所

プログラム

12月7日(土) 13:00～19:00(12:30 受付開始) +懇親会+学習会

13:00 開会あいさつ・オリエンテーション

13:20～19:00

【基調講演～グループワーク～講評】

講師：若林靖永氏

“考える” 力をつけよう！ 生協でみんなが幸せになるために

～ “教育のための TOC” をつかって～

生協組合員理事はなにをすべきなのでしょう？みなさんはなにをしたいのでしょうか？なにが問題でみなさんのめざすことがうまくいかないのでしょうか？答えは誰かが教えてくれるものではありません。自分たちで考えて決定して行動して学んでいくことが大事です。それを応援してくれるツールとして、前回好評でリクエストの多かった「教育のための TOC」を学びます。ワークの時間をしっかりとって、昨年受講された方はより深く、初めての参加の方でも戸惑いなく学べるように工夫しています。

19:30 夕食懇親会

21:00 “教育のための TOC” で一緒に考えよう (当日自由参加)

12月8日(日) 9:00～13:45 +OP ツアー

9:00 【講座～昼食交流会～ミニ講演】

大高塾／川口塾／杉本塾／北川塾

13:30 振り返り・閉会あいさつ 13:45 終了

13:50 オプショナルツアー (詳細別紙) 16:00 現地解散

簡単な事前課題をお送りします。その取り組みからセミナーは始まります(^_^)

講座のタイトル・趣旨

<p>大高塾 (大高研道氏)</p>	<p>●協同組合に教育は必要か？—私たちは何を学ぶのか？なぜ学ばなければならないのか？—</p> <p>協同組合にとって教育は、アイデンティティそのものである。「教育の原則」は、2度にわたって改正された ICA (国際協同組合同盟) 原則の中でも一貫して重視されてきたし、実際に教育の意義を否定する生協関係者は、(それが上辺だけのことであったとしても…) 皆無であろう。協同組合財務の特徴のひとつは教育基金、つまり配当可能な剰余金の教育資金への還元にあるとも言われてきた。このように、ロッチデール公正先駆者組合以来、協同組合は一定の人材(職員配置)と資源を教育に充当してきた。しかし、経営危機による教育資金の減少、さらには教育そのものが何のために行われるのかが、構成員間で明確に共有できなかったという内部的な理由もあり、教育軽視の傾向は強まっていく。</p> <p>教育はなぜ必要なのか？本講座では、協同組合の社会的認知の実際(低さ)をふまえつつ、我われにできること、しなければならないことは何か、ともに考えたい。</p>
<p>川口塾 (川口啓子先生)</p>	<p>●組織の運営と民主主義 —風通しのよいボトムアップとトップダウンとは…？</p> <p>組織の理念は素晴らしいのだけど、運営となると「何か、おかしい」と思うことがあります。 「こうすればいいのに…」と書いていても言えなかったり、ときには人間関係がギクシヤクしたり…。目指す方向は同じでも、必ずしも風通しがよいわけではなさそうです。</p> <p>この講座では、組合員理事の皆さんが感じる組織運営上の「何か、おかしい」事例を分析しながら、問題解決のためのヒントを探ります。そのプロセスで、「民主主義をもっと身近に、具体的に、実用的に身に付ける」といったことも意識しながら話をしたいと思います。</p> <p>話は大きくわけて3つ、①組織の仕組みに関すること、②会議の運営に関すること、③風が通る道づくりに関することです。こうした条件が整わなければ、想いがどれほど強くても風通しのよいボトムアップとトップダウンは実現しません。</p> <p>「何か、おかしい」が悪化する前に問題解決をしたい、できることなら「何か、おかしい」が繰り返されないような組織にしたい、そうして単協の隅々から民主主義力を積み上げ発信していく— 生協をそんな組織にしたいと思いませんか。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">杉本塾 (杉本貴志氏)</p>	<p>●海外の生協事情 ～ 日本の生協が見習うべきところと誇るべきところ</p> <p>19 世紀イギリスで生まれた生協の運動は、ロッチデールの名とともに世界中に広まっている。そのなかでも日本の生協は、組合員をしっかりと組織し、前例のないシステムティックな無店舗事業を展開するなど、世界の生協運動の中でも強力で優れた例に数えられてきた。</p> <p>スーパーマーケットとの競争に敗れたり、自らスーパー化してしまったヨーロッパの生協とは違い、組合員に立脚した「日本型生協」は安泰だ、とみなされていたことも 1990 年代にはあったのである。</p> <p>しかしそれから、日本の生協にも危機がやってきた。未だその危機は続いていると言っているだろうか。それでは、海外の生協はどのようなのだろうか。何か海外の生協に学ぶべきことはないのだろうか。また逆に、日本の生協が今後も大切にしていかなければならないものは何なのだろうか。それも、海外の生協を見ることによって、見えてくるだろう。</p> <p>イギリス、スイス、シンガポール、韓国などの生協の姿を紹介しつつ考えたい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">北川塾 (北川太一氏)</p>	<p>●田畑と食卓を結ぶもの—日本農業の現実を理解し、生協の役割を問う—</p> <p>日本の食料自給率 39%（カロリーベース）は主要先進国で最低、穀物自給率 28%（重量ベース）は世界で 120 位以下という惨状です。</p> <p>農業就業人口は最近 5 年間で 25%減少し、その平均年齢は 65 歳を超えました。40 万 ha 近くにのぼる耕作放棄地面積は、滋賀県の面積に匹敵しています。</p> <p>しかしその一方で、農業・農村に飛び込む若者の出現、地域に根ざした農業法人や農村女性による企業組合など新しい経営形態の登場、生産から加工・販売までを地域の関係者が主体的に結びつける取組みも広まりつつあります。</p> <p>本講座では、こうした日本農業（生産、経営、流通、政策など）の現実を数字で確認しながら、田畑と食卓（生産者と消費者、むらとまち）を結ぶものは何か。農業と農村地域、さらには私たちにとって必要不可欠な食を育むために、生協として何ができるのか。皆さんとともに考えます。</p>

講師プロフィール

※紙幅の都合上、著書の単著と共著の別、発行年、発行元等を省略しますことをご了承ください。

わかばやし やすなが
若林 靖永 氏（京都大学大学院教授／当研究所常任理事・研究委員）

専門はマーケティング・流通・商業。研究テーマは、顧客志向のマーケティング組織、伝統産業をはじめとする京都ブランドのマーケティング、商業・商店街活性化政策、ネットを活用したマーケティング、非営利協同組織のマーケティングなど。日本商業学会理事、日本流通学会理事、商品開発・管理学会会長、CIEC 副会長・事務局長、教育のための TOC 日本支部理事長。主な著作は、『顧客志向のマス・マーケティング』『現代生協論の探求：新たなステップをめざして』など。

おおたか けんどう
大高 研道 氏（聖学院大学教授／当研究所会員）

「人間はなぜ協同（協働）するのか」ということに興味があります。協同は矛盾だらけです。利害対立や意見の相違を乗り越え、利己的な心をもちながらも“つながり”に意義を感じる営みの先に何かあるのか。そのようなことを延々と考えています。日本社会教育学会、日本協同組合学会（常任理事・編集委員長）所属。近著（共編著）として、『闘う社会的企業—コミュニティ・エンパワーメントの担い手』（勁草書房）ほか。

かわぐち けいこ
川口 啓子 氏（大阪健康福祉短期大学教授／当研究所研究委員）

団体事務職としての勤務を経て、30 代後半から研究を始めました。医療生協や日本赤十字社の組織形成過程からその仕組みや意思決定の在り方について学び、最近では事務労働との関係を議論。「気持ちよく働ける組織…」について考えています。今年、『職場づくりと民主主義—仕組み・会議・事務』を出版。他に『従軍看護婦と日本赤十字社』（共編著）などがあります。日本医療経済学会、日本協同組合学会、医学史研究会などに所属し、勤務先では介護福祉士養成に携わっています。

すぎもと たかし
杉本 貴志 氏

(関西大学教授／当研究所理事・研究委員・『くらしと協同』編集長)

関西大学商学部で、日本では珍しい「生協・協同組合」について研究するゼミを主宰しています。研究領域は、協同組合の歴史的・理論的研究など。所属学会は、日本協同組合学会、ロバートオウエン協会、経済学史学会、社会思想史学会など。おもな著書は、『ビジネス・エシックスの新展開』、『食と環境－問われている日本のフードシステム』、『社会連帯組織としての非営利・協同組織（協同組合）の再構築』、『協同組合を学ぶ』など。

きたがわ たいち
北川 太一 氏

(福井県立大学教授／当研究所常任理事・研究委員会副委員長)

幼い頃を過ごした家の近くにはイチゴ畑、小学校への通い路には酪農家がありました。夏の暑い日、親類の家で食べた「マッカ」の味は忘れられません。農の風景と食の経験、いつまでも心に残るものですね。日本農業経済学会・常任理事、農水省農林政策研究所客員研究員、ふくいエコグリーンツーリズムネットワーク会長等を務める。著書に『新時代の地域協同組合』（家の光協会）、『農業・むら・くらしの再生をめざす集落型農業法人』（全国農業会議）など。

募集要項

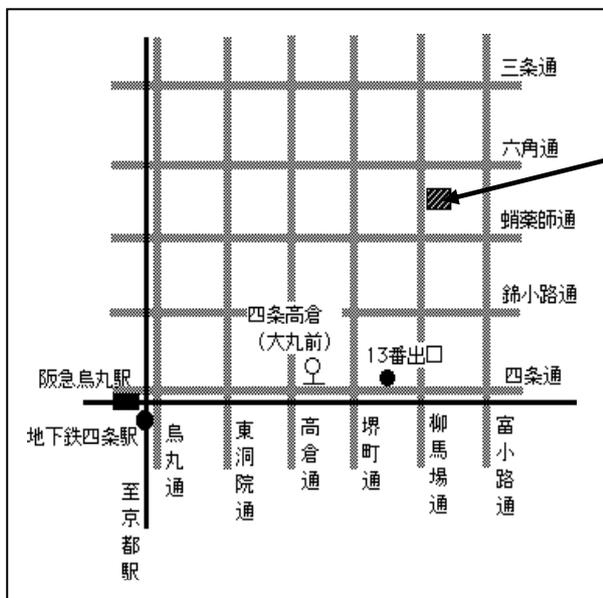
- 【募集人数】 40名 少人数での学びを重視した人数です。
【参加対象】 生協の組合員理事（非常勤理事）：2日間とも参加できる方に限ります。
【申込締切】 10月29日（火）先着順で定員に達し次第、締切らせていただきます。
【参加費】

①セミナー参加費	20,000円	当研究所会員（団体・個人）18,000円
②懇親会	5,000円	コープイン京都にて
③宿泊	8,100円	コープイン京都（シングル・朝食付）
④オプションツアー	1,000円	新島旧邸と同志社キャンパス（詳細別紙）

※②③④は希望者のみ

- 【スケジュール】 10/29 申込締切 → 11/5 事前課題発送 → 11/29 事前課題提出必着
【支払方法】 請求書をお送りしますので、指定口座にご入金ください。
【キャンセル】 事前課題発送後は追加募集できかねますので、なるべくキャンセルのないようお願いいたします。やむを得ずキャンセルの場合、次の費用を申し受けますことをご了承下さい。
○11/15～27＝参加費 30% ○11/28～12/5＝参加費 50%、宿泊 10%
○前日・当日＝参加費 100%、懇親会 100%、宿泊 80%、OP ツアー 20%

会場案内（コープイン京都）



コープイン京都

電話：075-256-6600
住所：京都市中京区柳馬場蛸薬師上る
最寄駅：市営地下鉄「四条駅」・阪急「烏丸駅」
から徒歩約13分。四条通地下道からは
13番出口が近いです。

くらしと協同の研究所

〒604-0851
京都市中京区夷川通烏丸東入る西九軒町 291
電話：075-256-3335
FAX：075-211-5037
E-mail：kki@ma1.seikyoku.ne.jp
URL：http://www.kurashitokyodo.jp